

仙人通信 112 袴腰岳 (1248m)

袴腰岳は愛鷹山塊の南部に位置し、一等三角点のある愛鷹山の富士山側にある目立たない山である。須津川沿いにある無人の山小屋である須津山荘の横に車を置いて、袴腰と愛鷹をピストンする予定で家を出たのであるが、山荘の手前にある須津川溪谷にキャンプ場が出来たり、紅葉の頃と重なり大棚の滝の手前にゲートが出来てしまい。車を置いての林道散歩からのスタートとなってしまった。昨晚の雨もあるのだろう、落差20mある大棚の滝も轟音を立て紅葉の中でなかなか絵になる。ヤマモミジが太陽を受けて、狭い溪谷を彩る。遙か上には溪谷をまたぐ大きな橋が掛けられ、山梨の昇仙峡をスケールアップした感じである。キャンプ場近くでは、昨夜の雨で元気を貰ったアザミ・アマナ・薄紫色のカワラノギクが咲き誇る。バラにも赤い実が付き輝いている。紫色に染れたヤマリンドウが開花の準備中だ。45分程で小さな祠の須津山神社と山荘である。溪谷を反対側に渡ったところが第一展望台への登山口だ。杉檜の植林された暗い沢沿いの道を下り、続いて九十九折りの登りが始まる。予想に反してキツイ登りで、結び目のあるトラロープを便りに15分程登ると、ほぼ横に張られたロープにそって熊笹の急傾斜の崖をトラバースする。そこからは枯れ沢を30m程登ると、手入れがされた檜林でジグザクが続く、こんな暗い林のなかで、イズカンアオエは青い蕾を抱いて元気である。やっと南側から光が入った尾根に出る。なんと山荘から1時間以上が経過である。ガイドには45分で第一展望台とあるがと焦る。日の当たる南斜面では、センブリやリンドウが蕾状態である。海に近いことから、温暖のために開花が遅いのかと納得する。梢越ではあるが、駿河湾に太陽が当たり反射して綺麗である。なんと展望台に1時間30分、予定の2倍を要してしまった。北側が切り開かれた展望台からは位牌岳の後ろに富士山があるはずだが、上昇気流で出来た雲が南側を覆い僅かに裾が見えるのみである。{ 予期していたとは言え残念である } 救われたのは、壊れたベンチの横でヤマリンドウが3個もの花を付けていてくれていたことだ。小さなピークを越えると袴腰の急登が迫る。植生も檜からアセビやブナ等に替り、梢越ではあるが位牌岳・鋸岳のこぶが、遠方には農鳥から光までの雪を頂いた南アルプスが臨める。熊笹の丈が2mほどになり、20cm程度の登山道を両側から覆う。視界がない中、必死で掻き分けて前に進む。登りの藪こぎを25分ほどで視界のある所へ出られた。太平洋側は伊豆半島・光る駿河湾・御前崎までが梢越しではあるが一望だ。山頂が近づくに従い2mもある太いブナが多くなる。山頂まで展望台から50分のガイドに対して80分を要してしまった。なんと計画から2時間15分ズレである。愛鷹と袴腰の往復予定が2時間弱であり、愛鷹へのピストンをあきらめざるをえず、引き返すことにした。弱いヒザにサポータを付け、滑る道を慎重に下山した。自分の事前調査不足が招いた山行であったが、予期しない紅葉やリンドウに会えて久弥の言葉を思い出した6時間弱の思い出に残る山旅であった。(h24.11.27)

大棚の滝



溪谷を染めるヤマモミジ



山頂のブナ

